

学校評価（最終）について

本校では、年2回の自己評価を行っています。1回目は9月（中間評価）、2回目は2月（最終評価）です。自己評価の資料として、8月と12月にご協力いただく保護者アンケートや生徒アンケートなどを参考にしています。また、この自己評価は、客観性を高めるために、学外の関係者評価委員によって評価していただいています。この評価を学校評価と呼んでいます。本日よりでは、今年度の最終評価結果についてご報告いたします。

<重点目標①（知）> 確かな学力の育成

評価の視点	対象	アンケート項目	%	最終評価
自分の考えを分かりやすく伝える・表現する力の育成と学力の向上	生徒	①授業では、集中して先生や友達の話の聞いている。	100	→
		②授業では、話し合い活動に積極的に取り組んでいる。	100	→
	保護者	①お子さんは、「授業が分かる」と言っている。	82	→
		②お子さんは、学習に対して意欲的であると感ずる。	73	→
	教員	①校内研究の研究主題を意識して学習指導に取り組んでいる。	100	→
		②ゴールイメージを持ち、それに到達できるような資料の提示をしている。	100	→
家庭学習の質的向上と学習習慣の定着	生徒	③家庭でも時間を決めて学習に取り組んでいる。	89	→
		④英語検定取得に向けて努力している。	78	→
	保護者	③お子さんは、家庭学習の習慣が身に付いている。	71	→
		④お子さんは、定期テストに向けて計画的に家庭学習に取り組んでいる。	71	→
	教員	④授業とリンクした予習・復習の課題を出している。	67	→
		⑤学校や家庭で読書をしている。	66	→
読書活動の充実	保護者	⑤家庭でも読書の習慣が身に付いている。	43	→
	教員	⑤読書指導をしている。	67	→

B

→

【課題①】計画的に学習を進めている生徒があまり多くない

- 定期テストに向けた取組
 - テスト計画表にワークの進め方を細かく記載する。
- ↓
- ・計画的にワークを進めることができる生徒が増えている。
- ・自分の学習の足跡がわかるテスト計画表への改善が必要である。

取組の成果 ○

【課題②】家庭での読書習慣が身に付いている生徒があまり多くない

- 本に興味・関心を持たせる取組
 - 新刊紹介、ビブリオバトルを行い、自分が読んでいる本以外に興味を持たせる。
- ↓
- ・平均貸出冊数は増加しているが、特定の生徒に偏っている。
- ・生徒、職員が一体となった計画的な取組が必要である。

取組の成果 △

《学校関係者評価委員会から》

- 重点目標①②について
- ・家庭での読書量を増やすには、保護者の協力が必要不可欠である。
- ・ICT機器の活用推進と読書量を増やすことを同時に進めていく場合、生徒はICTの活用に多くの時間を使うことが予想される。読書量を増やすには、計画的な取組が必要である。ノーゲームデーの活用も考えられるのではないかと。
- ・いじめや不登校について丁寧に対応してもらっている。学校に登校できるようになった生徒がいるというのはうれしいことである。引き続き丁寧な対応をお願いしたい。

<重点目標③（体）> 健やかな体の育成

評価の視点	対象	アンケート項目	%	最終評価
体育や部活動の充実による体力・運動能力の向上	生徒	①体育や部活動を通して、体力の向上を図っている。	91	→
	保護者	①学校は、体育・部活動を充実させ、体力の向上・耐える力の向上を図っている。	95	→
	教員	①体力・運動能力の向上や耐える力の向上を図っている。	89	→
安心・安全な学校づくりと防災教育の充実	教員	②学校内外の安全指導の徹底を図っている。	91	→
学校と家庭の連携による共同体制づくり	生徒	⑫11時ごろまでは寝ている。	64	→
		⑬ゲーム、パソコン、スマホ等は家庭の決まりをつくって、それを守っている。	81	→
	保護者	⑫お子さんは、11時頃までは寝ている。	69	→
		⑬お子さんは、ゲーム、パソコン、スマホ等は家庭の決まりをつくって、守っている。	64	→
教員	⑭望ましい生活習慣を身に付けさせるための取組をしている。	100	→	

A

→

<重点目標④> 信頼される学校づくり

評価の視点	対象	アンケート項目	%	最終評価
地域に開かれた学校づくり	生徒	⑭学校に行くのは楽しい。	85	→
		⑮信頼できる先生がいる。	91	→
		⑯将来の夢や目標を持っている。	80	→
	保護者	⑰地域の行事に積極的に参加している。	77	→
		⑩学校は、子どもたちが地域で活躍できる機会を充実させている。	93	→
		⑭お子さんは、学校へ行くのが楽しそうである。	91	→
教員	⑮信頼できる先生がいる。	93	→	
	⑯お子さんは、将来の夢や目標を持っている。	71	→	

A

→

<重点目標⑤> 組織的な学校づくり

評価の視点	対象	アンケート項目	%	最終評価
業務改善の取組	保護者	⑰学校は、多忙化改善に向けた取り組みを積極的に進めている。	93	→
	教員	⑱業務改善に向けた積極的な取組を実践している。	100	→
組織的な学校づくり	教員	⑰各種たより等を通じて、情報発信している。	90	→
		⑲生徒のことに付いて、保護者との連絡をとっている。	100	→
		⑲服務規律を遵守している。	100	→
		⑳管理職への報告・連絡・相談を行っている。	100	→

A

→

《学校関係者評価委員会から》

- 全体を通して
- ・読書は積み重ねが大切である。小さいころからどれだけ読書に親しんでいるかが大切である。
- ・たくさん本を読んだ生徒には図書カードをプレゼントするというのはどうだろうか。
- ・文化祭の合唱は本当に素晴らしく、感動を与えてくれた。
- ・11月19日に行われた全校道徳は、コロナ禍の中で絶対に必要な授業だと思った。自分たちの周りでも、他の市町のような感染状況にいつなるかわからない。その時、差別や偏見を子どもたちが持たないための授業であった。非常によいタイミングでの授業であった。
- ・コロナ禍の中、昨年とほとんど変わらない教育活動を行ったということは、対策として大変な苦勞があったと思う。学校はよく頑張ってくれたと思う。
- ・北國新聞の地鳴りへの投稿は、新聞に載った生徒にとって大きな自信になると思う。今後も継続して欲しい。

【課題③】家庭でのルール（テレビ・ゲーム・パソコンなど）が守れない生徒がいる

- ゲーム・パソコン・スマホ等の使用時間を減らす取組（ゲーム・パソコン・スマホ等の使用時間を短くすることで睡眠時間を確保させる）
- 使用時間のアンケートを取り、自分の生活を振り返らせる。ノーゲームデーを設定し、使用せず時間を有効に使うよう指導する。
- 睡眠に関する講話（生徒・保護者対象）



- ・家庭での意識は確実に高まっている。
- ・タブレットの活用を推進する中で、ルール作りが一層大切になる。
- ・ノーゲームデーの設定は、大切な取組であり継続して行く。

取組の成果 ◎

《学校関係者評価委員会から》

- 重点目標③④⑤について
- ・3年生は受験勉強の取組が本格化しているので、睡眠時間が遅くなっている。進路実現のために頑張ってもらいたい。
- ・「信頼できる先生がいる」と答えている生徒、保護者が90%を超えている。先生方の努力があつたことだと思う。

